

令和7年度 山梨県衛生環境研究所研究成果発表会

日 時：令和8年3月11日（水）13:30～（受付開始 13:00）

場 所：山梨県庁防災新館 409 会議室

オンライン併用（Teams 使用）



右の QR コードまたは URL からお申し込みください。

（会場定員：先着 60 名）

申し込み期限：令和8年2月25日（水）

オンラインの方は、発表会前日までに Teams 招待をお送りします。

<https://forms.office.com/r/MvriFTYNwH?origin=lprLink>

プログラム

1. 基調発表（13時35分～）

（発表 20 分 質疑応答 5 分）

「レジオネラ症を予防するための消毒困難な温泉に対するモノクロラミン消毒」

（微生物部 柳本 恵太）

【研究紹介】

2002 年、国内で入浴施設の浴槽水を介した大規模なレジオネラ症の集団感染が発生し、感染者 295 人、死亡者 7 人と報告された。それ以後、国内各地で多くのレジオネラ症集団感染の事例が報告され、レジオネラ症患者数も増加傾向を示している。

入浴施設の浴槽水は、入浴者の汚れが蓄積し、細菌で汚染されるため、毎日浴槽を洗浄し湯を交換することが重要であるが、浴槽水の節約や清掃負担の軽減等のため、浴槽水を循環利用する施設が多く、浴槽水の消毒には水泳プールと同様に、塩素系消毒剤が用いられている。

しかし、このような一般的な遊離塩素による消毒では、浴槽水となる温泉水の pH が高い場合、消毒効果が十分に発揮されないことが確認されており、このような高 pH 浴槽水でもレジオネラ属菌の増殖を抑制できる消毒方法の導入が求められていた。

このようなことから、本研究では、高 pH 浴槽水でもレジオネラ属菌に有効なモノクロラミンの具体的な入浴施設の衛生管理の方法を、実際の温泉施設等の御協力を得ながら数年検討を重ね、一定の結論を導き出すことに成功した。

このような研究成果が、本県の感染症対策に多大な貢献をしており、さらに厚生労働省による公衆浴場衛生管理要領の改正に反映され、全国の自治体への通知を通じて普及が進んでいることを評価いただき、令和7年度 Y-CROST 研究奨励賞※に選出された。

今回は、研究の過程で明らかとなったレジオネラ感染症対策や、これまでの研究の歩みについても紹介する。

※Y-CROST 研究奨励賞は、山梨県立試験研究機関に勤務する研究員の資質向上と試験研究のさらなる発展を図ることを目的として、若手・中堅研究員の中から、本県の「産業や県民生活」、「施策推進」への貢献度が高い研究業績を挙げた者を表彰するものです。

2. 口頭発表 (14 時 00 分～)

(発表 10 分 質疑応答 5 分)

- ① GC キャピラリーカラムの溶媒洗浄効果について (生活科学部 山本 敬男)
- ② GC-MS/MS を用いたかんきつ類におけるオルトフェニルフェノール及びジフェニルの分析法の検討 (生活科学部 小澤 敦士)
- ③ 新たに始まった感染症発生動向調査 (急性呼吸器感染症) について (微生物部 大沼 正行)

3. ポスター発表 (14 時 50 分～15 時 30 分)

※ポスター発表は会場のみで行います。

※オンライン参加の方は Teams 上でポスターを表示し、質問等はチャットで受付け、後日回答します。

- ① ミネラルウォーター分析に用いる GC-MS の窒素キャリア化 (生活科学部)
- ② 有毒植物を原因とする食中毒事例を想定した機器分析法の検討 (生活科学部)
- ③ タカサゴキララマダニ飽血若虫の観察について (微生物部)
- ④ 山梨県におけるインフルエンザウイルス (2012～2024) (微生物部)
- ⑤ 新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス、ノロウイルスを対象とした山梨県内の下水疫学調査 (2025 年度) (微生物部)
- ⑥ 山梨県内の有害大気汚染物質 (揮発性有機化合物) の経年・経月変化 (環境科学部)
- ⑦ R6 年 7 月発生の着色河川の原因物質に関する追加調査 (環境科学部)

山梨県衛生環境研究所

〒400-0027 山梨県甲府市富士見一丁目 7-31
TEL 055-253-6721 FAX 055-253-5637
<https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>
【問い合わせ先】企画情報科 土屋、堀内

